

今年のセンター試験に見る Reading Skill の重要性

池野 修

Revised POLESTAR Reading Course (以下『ポールスター R』)は、さまざまな実践的場面で必要とされるリーディング技能の習得を促し、英文読解力を向上させることを目的として作成されている教科書であるが、大学入試問題にも十分対応できる「骨太の英語力」を養成するにも有効である。今年1月に実施された大学入試センター試験の問題を例に、『ポールスター R』で扱われているリーディング・スキルや関連活動が実際にどのように役立つのかを見てみよう。

(1) 速読を可能にする「フレーズ・リーディング (phrase reading)」

センター試験は、総ページ数 29 ページにもものぼる 6 つの大問から構成されており、これだけの情報量の問題を 80 分という時間内でこなすためには、英文を素早く処理し、意味を理解する能力が必要とされる。このニーズに対しては、英文を英語の語順に従いながら読み下す「フレーズ・リーディング」(cf. 返り読み)が有効である。『ポールスター R』ではこのスキルを Lesson 1 (p.8) で導入し、残りのレッスンの英文でも用いるように推奨している。また、教授用資料には、フレーズ・リーディングで出会う可能性のある困難点 (e.g. 関係代名詞の読み下し、it 構文の処理の仕方) への対処方法も解説している。

(2) 特定の情報を短時間で探し出し理解する「スキヤニング (scanning)」

今回のセンター試験で目を引かれる問題の 1 つは第 4 問 B であり、これはエコツアーの広告を題材とした、スキヤニング (情報検索読み) を行わせる問題となっている。従来の問題とは逆に、英文の前に設問が配置されていることも、かなりの情報量が含まれる英文の割に設問は 2 つしかないことも、そうした読みをテストしていることの反映である。このス

キルは、『ポールスター R』でも Lesson 4 (p.30) で扱い、後続のレッスンでの題材でも応用できるように関連活動を組んでいる。どの英文に対しても同じような読み方をするのではなく、ねらいや英文のタイプを考え合わせて読み方を調整する力を養うことが必要である。

(3) 物語文を効果的に読む力をつけるための活動

センター試験の第 6 問は従来から物語型の文章が出題されている。『ポールスター R』では、Active Reading (1) (p.58) というコラムで、物語文を素材として扱い、特に「5W1H を押さえながら読む」スキルに関して、キーとなる表現に記号づけをしながら読む活動などを取り入れている。こうした活動をこなすことにより、ただ漠然とストーリーを読むのではなく、物語のでき事とその原因を押さえながら、時間軸に従って英文を効果的に理解する力を養成できる。

(4) 読み取った内容を簡潔に自分の言葉で言い直す「要約 (summarizing)」

今回の試験の第 3 問 B を解答する際には、「要約」に関するトレーニングが役立つものと考えられる。この問題はクラス・ディスカッションのやり取りの空所補充の問題であり、よく見てみると、空所となっているのは、司会者 (Moderator) が前の人の述べたことを要約している部分であることがわかる。『ポールスター R』でも、Summary (p.69) というコラムで要約の方法を詳しく説明しており、また、Lesson 7, 9, 12 でも、Target Skill としてこのスキルの効果的使用を促すように工夫している。元々は、あるまともごとくに読んだ内容を簡潔に言い直してやることで、理解を確かなものにするのをねらいとするスキルであるが、今回のセンター試験にも役立つことがわかる。

(5) 文字情報を視覚イメージに転換する「視覚化 (visualization)」

センター試験では、英文から得た情報の理解を、関連のイラストや図表を用いてテストするという問題が例年出題されている。今年の問題で言えば、第5問A、Bなどがそれに当たる。状況や具体的事物を描写した文章を読む場合には、該当部分を日本語に訳せるかどうかというよりも、むしろ頭の中でその視覚的イメージが思い浮かべられるかどうかが重要である。教科書を用いた普通の授業でも、適切な題材を用いてこのスキルの練習を行うことが望ましいと考えられる。『ポールスターR』では、たとえば、船の航路についての英文を読み、地図上にその航路を描き込ませる設問(p.115)などでこのスキルの定着を図っている。

(6) 意味を知らないキーワードに対して用いる「未知語の推測 (guessing the meaning of the target word)」

今年のセンター試験の第3問Aは、ターゲット語・表現の意味を文脈から推測させる問題である。これに関連するスキルとして、『ポールスターR』では、未知語の推測のためにさまざまな手がかり(e.g. 語幹や前後文脈)を活用する方法をLesson 2(p.15)で導入している。ここで習得したスキルは、より大きな文脈を活用してターゲット語の意味を推測するという課題にも応用できるはずである。

(7) 論説調の英文を読む際に効果的なスキル

今回の試験には目立った形では見られなかったが、センター試験では論理展開の理解を問う問題(空所補充などの形式)も出題される場合がある。論説文に対しては、「Paragraph Reading 入門」で扱っている「パラグラフの情報の流れ(p.20)」「パラグラフの展開パターン(pp.29, 37)」や「Discourse Markers (p.132)」などが有効であろう。

実社会での仕事や大学での学術活動で必要とされるリーディングには多様なスキルが要求され、*Revised POLESTAR Reading Course*ではそうした活動において必要とされるさまざまな読解力を鍛えられるように、多彩な関連活動を用意している。TOEFL (Test of English as a Foreign

Language) や TOEIC (Test of English for International Communication) などとも同じように、センター試験をはじめとする大学入試も、「現実社会で必要とされるリーディング・スキルをテストするための試験問題」という性質を年々強めているようである。*Revised POLESTAR Reading Course*を通して鍛えた英語リーディングの力は、そうした試験でも効果的に機能するはずである。

(愛媛大学准教授)